

家庭科教科書に描かれた児童・生徒の家事イラスト

入江 和夫・江口 万友*

The Illustration of Pupils and Students Doing Housework in Homemaking Textbooks

IRIE Kazuo, EGUCHI Mayu*

(Received August 5, 2010)

キーワード：家事負担、家庭科教科書、父親との接触機会、協働

はじめに

戦後、家庭科は新しく誕生した教科である。昭和22年学習指導要領の「はじめのこトば」に家庭科とは家庭建設に向けて必要な家事、家族関係、責任感を育成する教科であることが述べられている。現行の小学校家庭科学習指導要領（平成10年）で「自分と家族などのかかわり」「日常生活に必要な基礎的な技能」「家族の一員」、中学校学習指導要領（平成10年）で「A 生活の自立と衣食住」「B 家族と家庭生活」が示されているように、現在でも家庭科は家庭への責任意識を育みながら家族関係と家の仕事などを学ぶ教科として位置づけられている。しかし家庭科の目標とは裏腹に、今日の日本社会では女性の家事偏重や家庭における父親の存在の希薄化などの問題が生じている。山梨県の男女共同参画に関する県民意識・実態調査において、「掃除」、「洗濯」、「食事のしたく」の家事は女性の8割以上が行っている。また、内閣府の「第2回青少年の生活と意識に関する基本調査」では「父とは話さない」、「父親が自分の気持ちをわかっていない」と回答する小・中学生は2～4割存在する。家庭科にこのような問題を生じさせる要因が果たしてあるのだろうか。家庭科教科書には家事を行っているイラストがあり、父母、祖父母、男女の子どもたちが衣食住などの仕事をしている様子が描かれている。

そこで子どもたちの家事分担や親との接触機会を把握するためにイラストに注目して、子どもの性別による家事の種類や登場数に違いがあるか、さらに家族の接触機会としての家事協働について登場する相手に違いがあるかの観点から分析したので、結果を述べていく。

1. 方法

1-1 調査した教科書：小学校家庭科教科書（開隆堂，東京書籍）、中学校技術・家庭教科書（開隆堂，東京書籍）

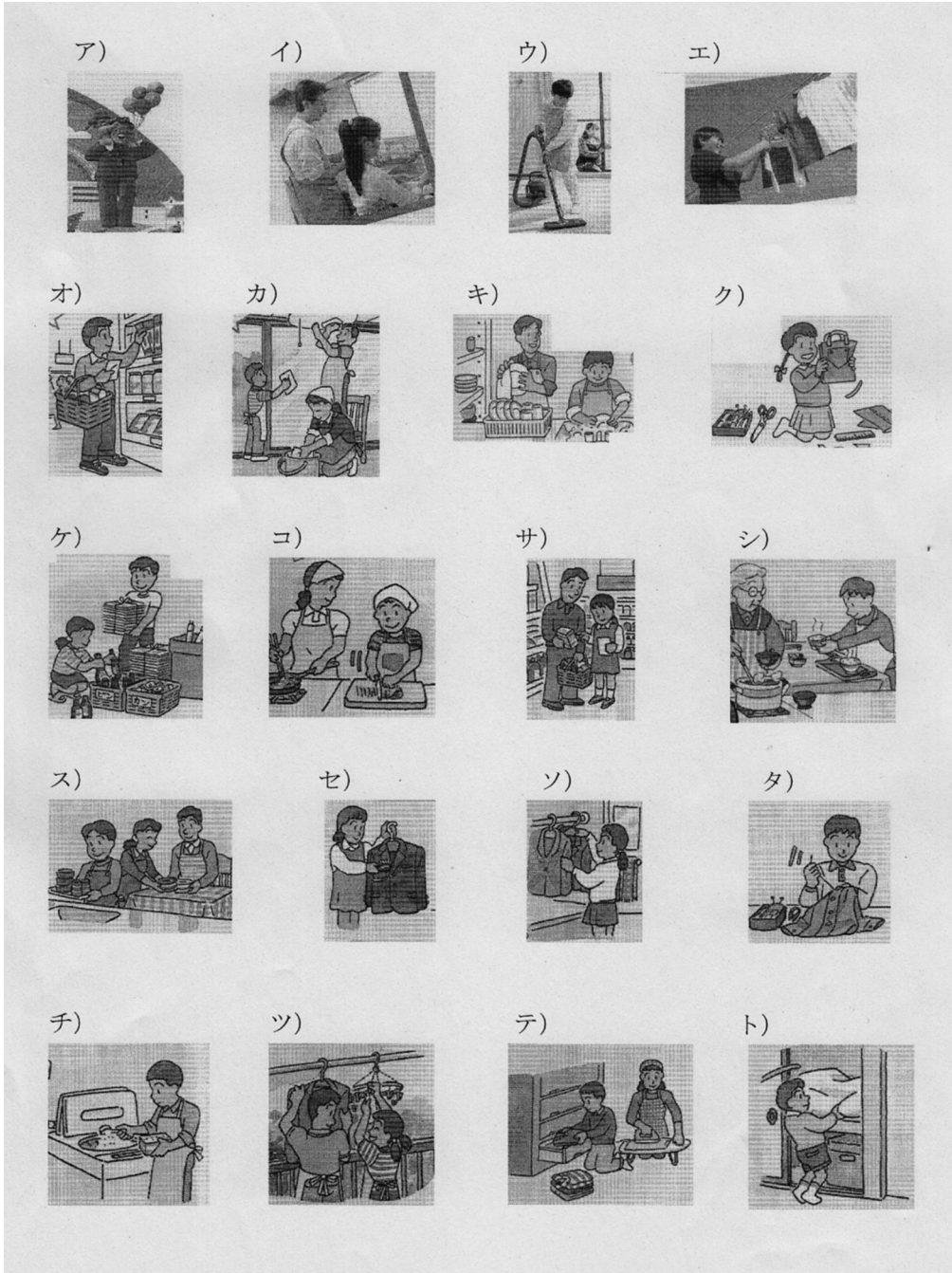
*私立豊国学園高等学校

1-2 イラスト抽出：衣食住などの内容に関する仕事をしている場面

2. 結果と考察

2-1 教科書（小学校家庭科）の家事イラスト

教科書のイラストにある家事内容を大まかに把握するために、開隆堂版小学校家庭科教科書を典型例として分析した。家事を示すイラスト66枚を解説していく。



ナ)



ニ)



ヌ)



ネ)



ノ)



ハ)



ヒ)



フ)



ヘ)



ホ)



マ)



ミ)



ム)



メ)



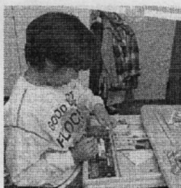
モ)



ヤ)



ユ)



ヨ)



ラ)



リ)



ル)



レ)



ロ)



ワ)



ヲ)



ン)



ア*)



イ*)



ウ*)



エ*)



オ*)



カ*)



キ*)



ク*)



ケ*)



コ*)

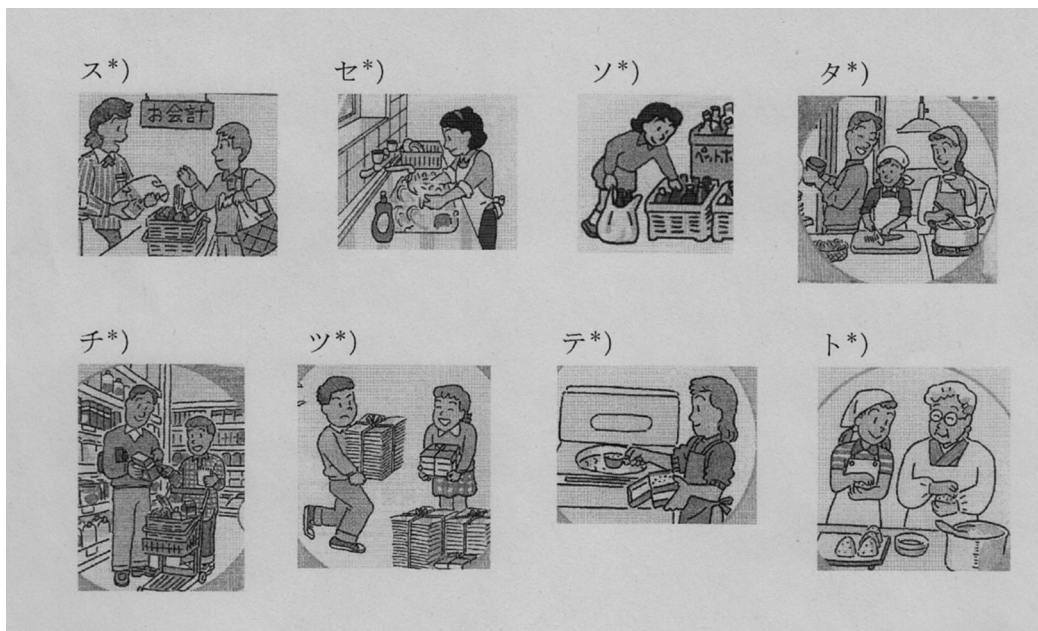


サ*)



シ*)





ア) ヌ) ノ) ハ) マ) ミ) カ*) セ*) テ*) は小学生が登場しない、父母や祖母だけのイラストである。ヌ) は母による掃除である。ハ) は祖母がアイロンがけをしている。高齢者を弱者として扱うのではなく、元気な高齢者は家の仕事を分担することを意識づけている。マ) は食事のしたくをする母。カ*) は衣服整理する母。セ*) 母による食器洗い。テ*) 母による洗濯である。父親の家事イラストに注目すると、ア) は父が幼児を肩に乗せ、子育ての役割を果たしている。ノ) は父と母が協力して食事の準備をしている。ミ) は父が食事を運んでいる姿であり、楽しい食事を想像させる。以上のように、父であっても家事の役割があることを強調している。

イ) キ) サ) チ*) コ*) は父と子どもと一緒に家事をしているイラストである。イ) キ) は父と女の子、父と男の子が皿洗いを一緒にしている場面である。父がしっかり家庭に存在し、皿洗いを通して子どもとのコミュニケーションを行っている。サ) チ*) は父と女の子、父と男の子が買い物を一緒にしている場面であり、コミュニケーションができる家事として示されている。コ*) は兄弟姉妹の仕事の遠くから父親が見守っている姿である。以上のように父親が家事を子どもと協働することでその存在感を意識付けるとともに父親とのコミュニケーションができることを示している。

イ*) は祖父と父と娘がいる大家族である。協力して食事の後かたづけをしているイラストは安堵感を与えている。

コ) テ) サ*) は母と子どもと一緒に家事をしている。コ) サ*) は母と男の子と一緒に食事作りをしている場面であり、調理技能を母から教えてもらいながら、コミュニケーションも行える。テ) は被服の整理整頓である。母と協力しながら自分の洋服をタンスにしまっている場面もコミュニケーションができる。

シ) ト*) は祖母と男の子、女の子とのイラストである。前者では祖母がみそ汁をお椀に入れる場面であり、後者では一緒におにぎりを作っている場面である。家事の協働を孫と行うことは能動的な高齢者観を育てることになる。

カ) ス) ヲ) ア*) シ*) タ*) は父母がそろって子どもと家事をしているイラストである。カ) では父は照明の掃除、母は床掃除、男の子は扉ガラスふきをしている。カ) ヲ) ア*) シ*) では父母と共に男の子が食事の準備をし、タ*) では父母と共に女の子が食事の準備をしている。特にア*) では祖父が元気な姿で登場し、家族全員分のお茶入れを行っている。このように家族全員がそろって家事をする姿こそ、果たすべき家の仕事をそれぞれが認識でき、お互いの結びつきの強さを感じさせる。

ケ) ツ) ヤ) ル) キ*) ツ*) は兄弟姉妹が家事をしている。親の姿がなく家族で決められた家事分担を実践している姿は背後に家族力の強さを感じさせる。また、兄弟姉妹間のコミュニケーションがとれることになる。

ウ) エ) オ) タ) チ) ト) ナ) ネ) ヒ) ホ) メ) モ) ユ) ラ) レ) ワ) ン) ウ*) エ*) オ*) ク*) ス*) は男子が一人で家事を行っている場面である。イラスト内容は前者から掃除、洗濯物を干す、買い物、ボタン付け、洗濯、布団引き、ゴミ出し、風呂掃除、ゴミ出し、洗濯物を干す、アイロンがけ、食器洗い、机の整理整頓、ボタン付け、ガスコンロ掃除、床掃除、買い物、洗濯もみ洗い、洗濯物を干すである。このように男子の家事実践は女性への家事負担を減らすことにつながる。

ク) セ) ソ) ニ) フ) ヘ) ム) ヨ) リ) ロ) ケ*) ソ*) は女子が一人で家事を行っている場面である。イラスト内容は前者から持ち物袋作成、洋服のブラシがけ、洋服の整理整頓、ペットの世話、新聞を取りに行く、ゴミを集める、食事の支度、野菜の計量、ミシン、窓拭き、タンス整理整頓である。男子と比較すると場面数が少なく、家庭科の学習にはないペットの世話、新聞を取りに行くことも含まれている。

2-2 家事内容

イラストには父母や祖父母のみの場面も含まれているが、児童・生徒が関わるイラストのみに注目していく。家事分担において、現状では女性に負担が大きいことが報告されている。児童・生徒は将来、家族を形成し、家事を分担していく。そこで彼らが登場するイラストに描かれている家事の種類と量について性別による違いを明らかにしていく。

2-2-1 小学校家庭科教科書

小学校家庭科では衣食住などに関する基礎的な知識と技能を身に付けることを目指している。教科書2社について男女別の家事の種類と量について明らかにした結果を図1、2に示した。

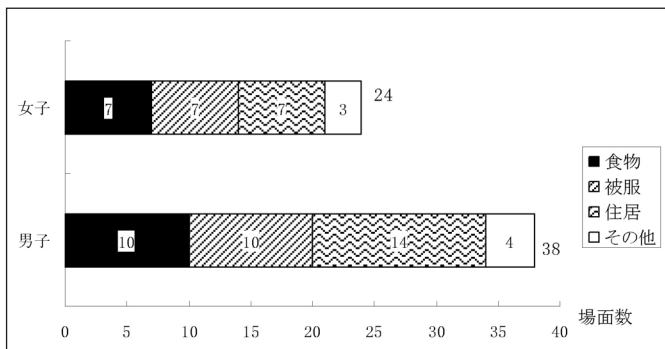


図1 家事の種類別場面数（小学校家庭科教科書、開隆堂版）

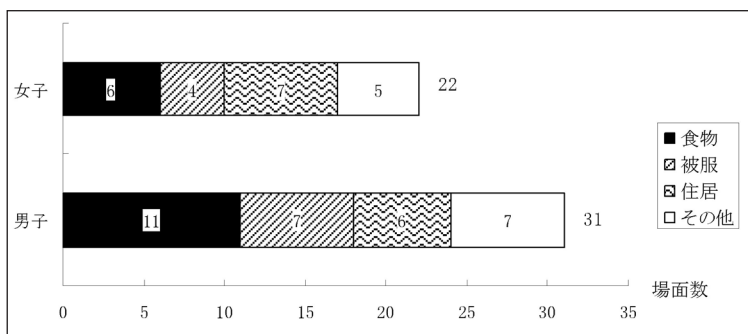


図2 家事の種類別場面数（小学校家庭科教科書、東京書籍版）

小学校家庭科教科書、開隆堂版では男子は38場面、女子24場面であり、男子は女子に比べ約1.6倍の登場率であった。男子の「食物」「被服」「住居」は10～14場面であり、女子ではいずれも7場面あり、バランスがとれていた。東京書籍版では男子は31場面、女子22場面あり、男子は女子に比べ約1.4倍の登場率であった。特に男子の「食物」の11場面は被服、住居の7～6場面に比べて多かった。

2-2-2 中学校技術・家庭科「家庭分野」教科書

中学校家庭科は生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術の習得を目指している。教科書2社について男女別の家事の種類と量について明らかにした結果を図3、4に示した。

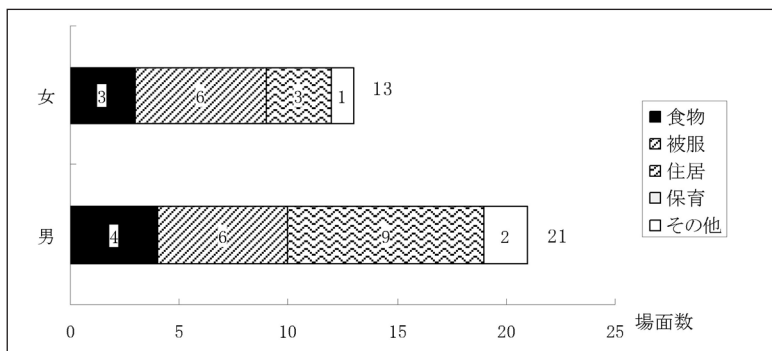


図3 家事の種類別場面数（中学校技術・家庭教科書、開隆堂版社）

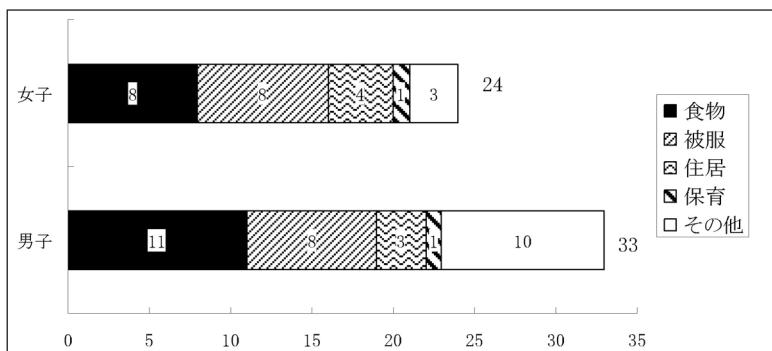


図4 家事の種類別場面数（中学校技術・家庭教科書、東京書籍版）

中学校技術・家庭科教科書において、開隆堂版では男子は21場面、女子13場面であり、男子の登場数は女子に比べて約1.6倍であった。この倍率は小学校教科書の場合と同様であった。男女とも「食物」の内容は少ない。女子では「被服」6場面でも多く、男子では「住居」が9場面でも多かった。同社の小学校家庭科と比較すると家事量は約半減していた。

東京書籍版では男子は33場面、女子は24場面あり、男子の登場数は女子に比較し約1.4倍であった。この倍率は小学校教科書の場合と同様であった。内容に注目すると男女とも「食物」「被服」が多く、男子ではそれぞれ11場面、8場面、女子ではそれぞれ8場面であった。「その他」は「買い物」「お年寄りの世話」などに関わる内容であり、男子では10場面あり、女子の3場面に比べ多かった。小学校家庭科教科書と同様に、両社とも男子が家事をしているイラストの登場率は女子よりも1.4～1.6倍多かった。

2-3 家事の協働形態

家事の協働とは家庭生活をよりよくしていこうとする同じ目的のために家族構成員が家庭の仕事を共にすることである。このことによって家族の一員としての責任として果たすことができるとともに家族とのコミュニケーションができる。特に父親のコミュニケーション不足及び子ども理解不足は深刻な問題であり、家事協働の意義は大きい。そこで小学校家庭科、中学校技術・家庭科の家事の協働形態を明らかにした。

2-3-1 小学校家庭科教科書

現行の小学校学習指導要領（平成10年）では家の仕事を「協力することによって家族との触れ合いが充実し、家族への心情が深まることにも気付くようにする。」とあり、家事協働は家族との触れ合いとの関係で重要である。小学校家庭科教科書イラストに男女が登場する協働の相手の度数を調査した結果を表1、2に示した。

開隆堂版の家事形態に注目する。男子の「協働」は15場面、「単独」は20場面であり、女子の「協働」は9場面、「単独」は12場面であった。東京書籍版では男子の「協働」は11場面、「単独」は20場面であり、女子の「協働」は9場面、「単独」は14場面であった。両社共通して男子の「協働」場面は女子に比べ多かった。

開隆堂版について、父と男子とに注目するとそれが1場面、父母として3場面、父母+祖父として1場面の計5場面があった。父と女子では一緒が3場面、父+祖母の1場面の計4場面があった。母と男子に注目すると、それが4場面、父母として3場面、父母+祖

表1 小学校家庭科教科書（開隆堂版）の協働

協働の相手	家事をしている場面数	
	男子	女子
父	1	3
母	4	0
父母	3	0
父母+祖父	1	0
父+祖母	0	1
祖父and/or祖母	1	0
兄弟姉妹	5	5
無し(単独)	20	12

表2 小学校家庭科教科書（東京書籍版）の協働

協働の相手	家事をしている場面数	
	男子	女子
父	4	2
母	1	2
父母	0	0
兄弟姉妹+父	1	1
祖父and/or祖母	3	2
兄弟姉妹	2	2
無し(単独)	20	14

父として1場面の合計8場面があった。母と女子については母と一緒に場面はなかった。すなわち、父と子ども（男子+女子）との協働合計は9場面、母の合計は8場面であり、父も母も子どもに同程度の頻度で接していた。

東京書籍版では父と男子に注目するとそれが4場面、兄弟姉妹+父として1場面の合計5場面があり、父と女子では2場面、兄弟姉妹+父として1場面の合計3場面があった。母と男子とが1場面あったのに対し、母と女子では2場面があった。東京書籍版の特徴として男子、女子とも父母がそろって一緒に家事をする場面はなく、男子では祖母や祖父と一緒に家事をする3場面があり、女子では2場面あった。すなわち、父と子ども（男子と女子）との協働の合計は8場面があり、母の合計は3場面があり、父の方が子どもに多く接していた。

以上のことから、小学校家庭科教科書内にあるイラスト場面数では父と子どもとの接触は母と同程度か、それ以上であり、父が子どもとのコミュニケーション不足や理解不足になってしまう結果ではなかった。

2-3-2 中学校技術・家庭科教科書

現行の学習指導要領（平成10年）中学校技術・家庭科では「家庭や家族の基本的な機能を知り、家族関係をよりよくする方法を考えること。」とあるように、家族関係をよりよくする方法として家事協働の場面は重要である。中学校技術・家庭科教科書にあるイラストに男女が登場する協働の相手の度数を調査し、表3、4に示した。

開隆堂版の家事形態に注目する。男子の「協働」は4場面、「単独」は16場面であり、女子の「協働」は5場面、「単独」は10場面であった。東京書籍版では男子の「協働」は9場面、「単独」は23場面であり、女子の「協働」は6場面、「単独」は16場面であった。両社の男子の「協働」場面数は女子とほぼ同程度か、やや多かった。

開隆堂版について、父と男子とに注目するとそれが1場面、父母として1場面の合計2場面あり、父と女子とでは1場面であった。母と男子では父母として1場面、母+兄弟姉妹として1場面の合計2場面であり、母と女子では母+兄弟姉妹として1場面だけであった。すなわち、父が子ども（男子+女子）との協働場面の合計は3場面、母との合計は3場面であり、同じ頻度であった。

東京書籍版について、父と男子とに注目するとそれが3場面、父+兄弟姉妹として1場面の合計4場面であり、父と女子とでは2場面、父母として1場面、父+兄弟姉妹として1場面の合計4場面であった。母と男子ではそれが3場面であり、母と女子では父母として1場面であった。すなわち、父と子ども（男子+女子）との協働場面の合計は8場面、母との合計は4場面であり、父の協働頻度の方が多かった。

表3 中学校技術・家庭科教科書（開隆堂版）の協働

協働の相手	家事をしている場面数	
	男子	女子
父	1	1
父母	1	0
母+兄弟姉妹	1	1
祖父and/or祖母	0	2
兄弟姉妹	1	1
無し(単独)	16	10

表4 中学校技術・家庭科教科書（東京書籍版）の協働

協働の相手	家事をしている場面数	
	男子	女子
父	3	2
母	3	0
父母	0	1
父+兄弟姉妹	1	1
兄弟姉妹	2	2
無し(単独)	23	16

以上のことから、中学校技術・家庭科教科書内にあるイラストでは父と子どもとの接触は母と同程度か、それ以上であり、父が子どもとのコミュニケーション不足及び理解不足になってしまう内容ではなかった。

おわりに

結果は次のようにまとめられる。

- 1) 教科書のイラストにある家事内容の概観を把握するために、典型例として開隆堂版小学校家庭科教科書を分析した結果、父だけ、母だけ、父母協働、父母と祖父協働、父と祖母協働、祖父あるいは祖母、兄弟姉妹の協働、児童だけ、などのパターンに分類できた。
- 2) 家事をする子どもの性別によるイラスト数の違いは小学校家庭科教科書、中学校技術・家庭科教科書共に、男子の方が女子に比べ1.4～1.6倍多かった。
- 3) 協働相手を父母側から見ると、小学校教科書（2社）において、父が子ども（男子＋女子）と家事協働するイラスト数の合計は8～9場面、母の合計は3～8場面であり、父と子どもとの接触頻度は母と同程度か、それ以上であった。技術・家庭科教科書（2社）において父が子ども（男子＋女子）との家事協働する場面の合計は3～8場面、母の合計は3～4場面であり、小学校家庭科教科書及び中学校技術・家庭科教科書とも共通に父と子どもとの接触は母と同程度か、それ以上であった。

女性が家事を主に行っていることが報告されていることから、教科書のイラストに関しても女性の登場率が高いのではないかと予想したが、そうなっていない。逆に男子の児童・生徒の方が1.4～1.6倍多かった。今後、女性の家事負担の偏重を改めるためには、男子が家事をしているイラストに注目させながら、家庭へ責任と家の仕事をリンクさせた指導が重要である。

父親と子どものコミュニケーション不足が問題となっていることから、教科書の父と子どもの家事協働イラストに注目したが、母親に比べ、父親のそれは同程度かそれ以上であった。今後、父親と子どもとの関わりを深めるには家事協働が親子の接触機会になることをイラストから理解させ、家庭へ責任と家の仕事と家族関係をリンクさせた指導が重要である。

参考文献

- 文部省：学習指導要領家庭科編（試案）昭和22年，1947.
文部科学省：小学校学習指導要領 家庭（平成10年），1998.
文部科学省：中学校学習指導要領 技術・家庭（平成10年），1998.
山梨県：男女共同参画に関する県民意識・実態調査，2005.
内閣府：「第2回青少年の生活と意識に関する基本調査」，2001.
櫻井純子ほか：「小学校 わたしたちの家庭科5・6」開隆堂，2003.
中間美砂子ほか：「技術・家庭 家庭分野」，開隆堂，2001.
渋川祥子ほか：「新しい技術・家庭分野」東京書籍，2001.